

和歌山県内経済情勢報告

(令和3年10月判断)

1. 総論「新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある」(判断を据え置き)

【総括判断】

項目	前回(3年7月判断)	今回(3年10月判断)	前回比較
総括判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるものの、持ち直しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	→

(注) 令和3年10月判断は、前回7月判断以降、10月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

一部に弱さがみられるものの、生産活動は、緩やかに持ち直しており、雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。また、個人消費は、持ち直しつつあることから、全体としては新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況にあるなか、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回(3年7月判断)	今回(3年10月判断)	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
設備投資	3年度は前年度を上回る見込み	3年度は前年度を下回る見込み	↓
企業収益	3年度は減益見込み	3年度は減益見込み	→

【先行き】

先行きについては、感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、国内外の感染症の動向、サプライチェーンを通じた影響による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直しつつある」

百貨店・スーパーは、飲食料品が堅調となっているほか、身の回り品では特選ブランドが好調となっているものの、外出自粛等の影響から衣料品は引き続き低調となっている。

コンビニエンスストアは、観光地の店舗では、観光客数の増加により一時好調であったものの、感染再拡大に伴い落ち込みがみられた。一方、住宅地の店舗においては、中食商品等の売上が堅調となっていることから、全体としては堅調となっている。

ドラッグストアは、衛生製品の需要に落ち着きが見られるものの、飲食料品については感染再拡大に伴う巣ごもり需要により好調であることから、全体としては堅調となっている。

家電大型専門店は、昨年の買い替え需要の反動等により冷蔵庫やエアコン等の需要が減少していることから、堅調な動きに一服感がみられる。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車、軽自動車ともに前年を下回っている。需要は堅調となっているものの、半導体不足等の影響により新車供給に遅れが生じている。

観光動向は、県内主要観光地において、海水浴場の開設等により一時は観光客数が増加傾向にあったものの、感染再拡大の影響等により厳しい状況となっている。足下では観光需要喚起策により、一部の観光地では回復に向けた動きがみられている。

(主なヒアリング結果)

- 7月4連休の後半は、感染者数が増加し、8月以降は長雨による天候不順により年配客の来店が減少したものの、9月中旬以降は回復の兆しがみられ、前々年の水準に近づくまで回復している日もある。身の回り品は、特選ブランドが引き続き好調となっているが、衣料品は、外出自粛やリモートワークの拡大から特に婦人服では需要が戻ってきていない。(百貨店・スーパー)
- 感染症の影響により好調だった前年同期と比較すると売上は減少しているものの、足下では横ばいまで回復している。客数について、8月は天候不順の影響により減少したものの、足下では昨年より増加しており、客単価は昨年並みとなっている。衣料品については、8月は気温が上がらず、長雨の影響もあり夏物衣料が売れなかった。9月は気温が下がらず、秋物衣料が売れていない。(百貨店・スーパー)
- 住宅街や郊外店舗では、在宅勤務の浸透や不要不急の外出自粛の影響もあって、売上は堅調に推移している。観光地の店舗では、7月頃は、気温の上昇に伴って日帰りを中心とした観光客が増加し売上が伸びたが、8月以降は、感染が拡大したことに加え、長雨の影響で外出が控えられたことから、厳しい状況となった。(コンビニエンスストア)
- 酒類や冷凍食品などが好調であり、飲食料品の売上は、前年より増加している。また、ワクチン接種に備えた解熱剤もよく売れている。マスクや消毒液の売上は、前年比では減少しているものの、例年と比較すれば堅調となっており、全体の売上は、前年を上回っている。(ドラッグストア)
- 昨年は特別定額給付金の一律給付などで売上が伸びた影響もあり、前年同期比では売上は減少している。需要が先食いされていることから、冷蔵庫やエアコンなどの売上は前年同期より減少している。(家電大型専門店)
- 足下の受注は伸びているものの、半導体やワイヤーハーネスの不足の影響で部品がサプライヤーに供給されず、生産が遅れている。納期の遅延が続き、注文がキャンセルとなるなど半導体不足は販売面にも影響を及ぼしている。(自動車販売店)
- 海開きのあった7月の観光客数は、昨年より大幅に増加したものの、8月は感染症再拡大に加え、長雨の影響が非常に大きく、外出自粛をする人が増加したことから、客数は昨年比で微増となった。全体としては、観光客数は例年には及ばないものの、昨年よりも海水浴場の開設期間が長かったことも影響し、昨年を上回っている。また、足下では、再開された県の観光需要喚起策の影響は大きく、年内の宿泊予約が順調に入ってきている。(観光関係団体)
- 7月の宿泊者数は、前年同月比、前々年同月に比べても増加している。県の観光需要喚起策の効果も受け、宿泊者数は回復した。8月以降は、感染症再拡大の影響によりお盆の帰省が見送られたことや、旅行控えがみられ、宿泊者数は減少しており、前年を下回る見込み。(観光関係団体)
- ランチについてはそこまで減少していないが、夜は厳しい状況が継続している。足下では、和歌山市の断水の影響があった店舗では売上が減少しているものの、断水の影響がなかった店舗では、来店客数が増加したことにより売上が増加し、全体の売上は対前年比で増加している。(飲食店)

■ 生産活動 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」等が低下しているものの、「化学工業」や「石油・石炭製品工業」等が上昇していることから、全体の指数は上昇している。

企業からは、需要は回復しつつあるものの、東南アジアからの部品供給不足等により生産量は減少しているといった声が聞かれており、生産活動は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 需要は好調であるものの、半導体不足や東南アジア（ベトナム）の工場がロックダウンした影響により、発注元では部品が納品されず、当社においても生産量は減少している。（機械工業、金属製品）
- 衛生製品の需要は、昨年の特需時と比較すると減少しているものの、例年比では増加している。また、半導体市場が好調なことや、油脂等の原材料価格の高騰が続いていることから、需要者が前もって購入する傾向がみられ、洗浄剤や研磨剤等の需要が増加している。（化学工業）
- カーボンニュートラルの影響から、需要家が設備投資に慎重な姿勢であることから、一部製品を除いてエネルギー関連製品の需要が低調となっているものの、国内向けの建築需要等が高く建築資材製品が好調となっている。（鉄鋼業）
- 自動車関連製品について、半導体不足や東南アジアの工場からの部品供給の遅れにより、発注元が減産していることから、当社においても8月以降、生産量が減少している。（輸送用機械）

■ 雇用情勢 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は、本年7月以降2か月連続で低下している。一方で、新規求人数は、前期と比較すると増加しており、雇用情勢は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 8月の有効求人倍率（季節調整値）は1.09倍となっている。足下（8月）の新規求人数は、感染症拡大を受け、一部企業が求人を控えたと考えられるものの、有効求人人数全体でみれば、昨年よりも増加している。一方で、有効求職者数は感染症拡大により、求職者が採用面接を控えたことから増加している。（公的機関）
- 製造部門では人手不足感があり、全国各地から募集された派遣社員でカバーしている状況。（電子部品・デバイス工業）
- 整備士が不足しており、外国人労働者の雇用を検討している。また、中堅層の離職が進んでおり、全職種で不足している。（自動車販売店）
- 従業員数については不足気味である。今後客数が回復した時のことを見据えて求人は常に行っているが、応募が少ない。（飲食店）
- 県の観光需要喚起策などの影響もあり、前期と比べ、比較的客室の稼働率が高いことから、人手は不足気味。（宿泊業）

■ 設備投資 「3年度は前年度を下回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和3年7～9月期調査）でみると、3年度の設備投資は、全産業で前年度を下回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「3年度は減益見込み」

法人企業景気予測調査（令和3年7～9月期調査）でみると、3年度の経常利益は、全産業で減益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を上回っている。内訳でみると、持家、分譲で前年を下回っているものの、貸家で前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、国、県、市町村で前年を上回っているものの、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数は前年を下回るものの、負債総額は前年を上回る」

倒産件数は前年を下回るものの、負債総額は前年を上回っている。

■ **景況判断** 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和3年7～9月期調査）の景況判断BSIで見ると、全産業で「下降」超となっている。

産業別は、非製造業では「上昇」と「下降」が均衡しているものの、製造業では「下降」超となっている。

規模別は、大企業では「上昇」超となっているものの、中堅企業、中小企業では「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL：073-422-6142